

調査研究推進委員会 調査研究推進セミナー

「実践研究のすすめ—実践と理論の往還の方法—」

開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員日

時：2024年11月17日(日)12:10~12:50

場所：姫路市市民会館(姫路市総社本町112番地)

参加者：70名

調査研究推進セミナーは、日本語教育における調査研究活動の推進と研究倫理の質の向上を目的としています。この度のセミナーは、「実践と理論の往還」について、また実践研究を行う際に注意すべき事柄について学び、調査研究活動に活かすことを目的に企画されました。昼休憩の時間にもかかわらず、70名の方にご参加いただきました。

2022年度に学会賞を受賞した池田玲子氏を講師に迎え、実践研究とは何か、なぜ理論と実践の往還が重要であるのかについて、ご自身のご経験を交えながら、ご講演いただきました。日々の実践の連続のなかで次々と起こる問題に振り回されることなく、実践を改善していくためには、実践で得た実践知について理論を用いて整理し、持論を更新して行くことが重要であり、「理論を持つ実践者」となることが重要であるというお話をいただきました。参加者を惹きつけるお話で、参加者の多くにとって明日から実践のエールとなったものと思います。多くの学びと気づきを与えられ、たいへん充実した中身の濃い時間となりました。

この度のセミナーを通し、実践研究における「実践と理論の往還」の重要性について理解が深まるとともに、実践研究への関心と意識が高まったものと思います。日本語学習者の属性やニーズの多様化という混迷の荒波を乗り越える方法の一つとして、「実践と理論の往還」による実践研究がさまざまな立場の方々に広く普及していくことを期待します。

(文責：調査研究推進委員会)